

下野市立吉田西小学校



1 学校課題

主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成
 ～学習課題の設定の工夫と語彙力の育成を通して～

2 研究計画

(1) 課題設定理由

本校では、昨年、一昨年度と研究主題を「学ぶ楽しさを実感し、自ら学び合う児童の育成」と設定し、「わかる」「できる」が実感できる授業づくりを通して、主体的に学び合える児童の育成を図ってきた。その中で、教師は単元の構成力や授業コーディネート力を向上させることができた。一方、授業改革をとおして「わかる」「できる」を実感した児童は、自分の考えや意見を進んで述べるようになってはきたものの、まだ自分の思いや考えを豊かに表現したり、互いの意見や考えを交流させ学び合ったりするまでには至っていない。

そこで、本年度は市の「小中一貫教育推進研究学校指定事業」を受け、「しもつけ未来学習」との関連を図りながら外国語活動の時間を使い、英語学習を中心としたコミュニケーション能力の育成を目的とした研究を進めることとした。

(2) 研究の仮説

児童が「やってみたい」と思えるような学習課題や活動を数多く設定し、ペアやグループ活動の活性化を図る中で、自分の考えを深め表現する力（語彙力・表現の仕方）を向上させたとき、主体的に表現し、伝え合う力を高めることができるだろう。

3 研究内容

(1) 研究授業を通しての課題への取組

期日	学年	教科・単元名	授業の工夫・手だて	成果・課題
6 / 11	6年	外国語活動 Unit2 Welcome to Japan 「Welcome to Japan」	日本文化を ALT に紹介する前に、グループ内で紹介し合ったり、内容や話し方などを友達や ALT・HRT に確認や助言したりする活動を取り入れた。	○コミュニケーションへの苦手意識が減り、自信をもって紹介することができた。 △視覚的資料や掲示物を作成し、コミュニケーションに必要な単語を掲示するとよい。
10 / 23	3年	外国語活動 Unit5 What do you like? 「What do you like?」	好きなものを尋ねた結果から Who am I? クイズを出すことを目標に定め、友達との会話、先生への質問と段階的に活動を取り入れたことは、コミュニケーションへの苦手意識を減らし、自信をもって質問することへの手立てとなった。	○活動の目的をしっかりと設定する（しかけを作る）ことで、子どもたちの自信や意欲につながることが分かった。 △十分な活動時間の確保や Speaking のさせ方の工夫をする とよい。

(2) コミュニケーションを図るための視覚的資料や掲示物の作成と利用の工夫

コミュニケーション活動では、聞き手がいづちやうなずき等を返すことで、一方向のやりとりを双方向のやりとりにすることができる。聞き手がいづちやうなずきなどを返すと、話し手は「共感してもらった」、「伝わった」と感じることができ、聞き手は「相手の言っていることをよく聞こう」、相手の言ったことに対して「自分の思いも伝えよう」と意識することができる。そこで、コミュニケーションの技能として「あいづち」「共感」「賞賛」などを表す英語表現（『つ

なぎ言葉』)と、「うなずき」「ジェスチャー」などを併せてリアクションのスキルとし、意図的に指導した。

特に、苦手意識のある児童が安心して学習できるよう、文字やイラストを使用した掲示物を工夫した。黒板に掲示することで、どのような英語表現を使ってコミュニケーションをすればよいのかが分かったり、意識して「つなぎ言葉」を使おうとする態度が身に付いたりすることができた。



(3) めざす児童像（身に付けさせたい力）の明確化

本校は小規模校であるため、学年によって、実態が大きく違う。その学年でどのような力を身に付けさせたいかを明確化することにより、指導の重点や方法も決まってくると考え、ブロックごとのめざす児童像を考えた。

めざす児童像
「既知の学習内容を活用し、表現力豊かに伝え合う子ども」

- ・自分の考えや思いをもてる力
- ・自分の考えや思いを表現する力（語彙力・表現の仕方）
- ・相手に分かってもらうために工夫して伝える力



低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや思いをもち、その理由が言える子 ・言葉だけでなく、文で伝えることができる子 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点を見つけて聞き合える子 ・大事なことをゆっくりはっきり表現できる子 	<p>英語では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既知の内容を活用して、リアクションをつけてコミュニケーションできる子 <p>他教科では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の反応を見ながら意見が言える子 ・論理的に筋道を立てて話すことができる子

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

○興味・関心や必要感のある学習課題設定したことで、児童の活動意欲（話したい）が高まった。また、子ども同士で教えあう姿も見られた。

○基本的なあいさつや曜日、天気を英語で言う活動を継続して指導したことで、「できる」が「言ってみよう」「やってみよう」という意識に変わり、コミュニケーションへの苦手意識が低くなってきた。



○「英語の学習に関する調査」において「自分の言いたいことが伝わらないときには、ジェスチャーを使って伝えようとしている」という質問の肯定的な回答率が、7月に比べて20%上昇し、88%となった。いろいろなやり取りの方法が分かり、ジェスチャーを使っての伝え合いができるようになってきた。

(2) 課題

○スキルが身に付いてきているが、目的や相手を意識するところまでは至っていないので、相手を意識して伝え合えるようにしたい。

○基本的な語彙や表現が自然に出てくるようになるまで、日常的な指導の継続が必要である。また、英語に触れる機会を増やし、楽しく学べる環境づくりにも力を入れていきたい。